

お知らせ

4月5日(日)無料資源回収を行います。詳しくは本日より同時に全戸配布されるチラシをご覧ください。

岩 沢 通 信

第87号

2018年5月25日創刊
発行 岩沢アチコタナーゼ・岩沢福祉会
岩沢地域振興協議会・岩沢分館
編集 石曾根 徹(地域づくり支援員)

サケの稚魚放流開催

2月24日午前、東日本旅客鉄道(株)と魚沼漁業協同組合の主催する「サケの稚魚放流活動」が川井本田信濃川右岸河川敷で開催された。
この取り組みは、信濃川の河川環境と水利利用の調和を図る取り組みとして毎年この時期に開催されており、今回が13回目となる。毎年総合学習として参加している南小学校4年生と2年生19人、そして

東小千谷小学校の4年生38人も放流に加わった。近年サケの遡上数が減少していることから、今回は約10万匹の稚魚を用意。子どもたちはゆつくりとバケツを信濃川の水面に付けながら傾け「頑張って泳いで、大きくなつてここに戻ってきてね」などと声を掛け川にそつと放った。



アチコタナーゼ除雪支援終了

2月21日今シーズンの除雪支援作業を終えて、作業メンバーに対する慰労会が山紫にて開催された。
1月21日の大雪からはほぼ毎週末出勤があり、今シーズンの作業は請負件数55件(1軒あたり2〜3回作業)出勤日数13日、作業延時間420時間、作業人員数14名という結果だった。
駒井和彦代表は「今シーズンの雪には苦労させられた。災害救助法が適用されてもなかなか作業員の手が回らず、しかも積雪量が多いことから1軒の家に多くの時間が掛かり、

アチコタナーゼ地域おこし協力隊募集集中
市内では10人が活動
小千谷市では、地域外の人材を活用し、地域の活性化を推進するとともに、定住、定着を促進するため総務省の制度を利用して「地域おこし協力隊」を市内に配置している。アチコタナーゼでも昨年6月から農家レストラン「より処 山紫」の運営に携わってもらうべく募集を行っているが、現在も採用に至っていない。
先日は新潟県庁で行われた地域おこし協力隊に関するシンポジウムに、にぎわい交流課のこの事業の担当である佐藤恵地域づくり支援員と岩沢担当の地域づくり支援員が参加。地域おこし協力隊の制度開始か

ら17年が経過し、変化する地域おこし協力隊の現状について学んだ。
問題喚起では「地域おこし協力隊の運用が曖昧となり、起業や定住が目的となっていない」と事務局が発言。これに対し「地域おこし協力隊は、自ら進んできているのだから、それなりのスキルがあり、むしろゆるくて良いのだ」という意見も大学の先生から出された。
いずれにせよ、岩沢地区にも早く地域おこし協力隊が着任してくれることを願うばかりだ。ただ急ぐあまりミスマツチはしてほしくない。



1日で多くの家の雪おろしの数をこなすのが難しかった。そんな中でもメンバーはいやな顔をせず頑張ってくれて、本当にありがたい」と話す。

福祉会がタイムカプセル出発式



2月27日南中学校にて、今年度の卒業生を対象に岩沢福祉会からタイムカプセルの贈呈と出発式が開催された。この式は令和2年コロナ禍で思うように活動が出来なかった学生が、5年後20歳になるときに自分に届くようにと、岩沢福祉会諏訪部栄一会長の提案で始めたものである。



当日は卒業を控えた3年生18人中16人が出席。福祉会の諏訪部長へ1人ずつタイムカプセルに封入する手紙が渡された。福祉会からのタイムカプセルの贈与は今回が6年目となり、今年の5月上旬ころ、最初に収めた手紙が自分たちの家に届くことになっている。



3月12日サンラックおぢやにて市内の福祉会が、情報交換と交流することで相互の資質向上と活性化を目的として「令和7年度福祉会合同研修会」を開催。岩沢からは谷内久子民生委員と石曾根地域づくり支援員が参加した。

福祉会合同研修会

この日の研修会には『おなか元気教室』やクルト健康教室として上越のヤクルト販売広報担当者が講演。「便は腸からのお便りだから、排便の後はその状態をしっかりと見て、自分の腸内環境を整えてほしい」と説明。参加者は手軽にできる腸のトレーニング体操などを行いました。有意義な時間を過ごした。

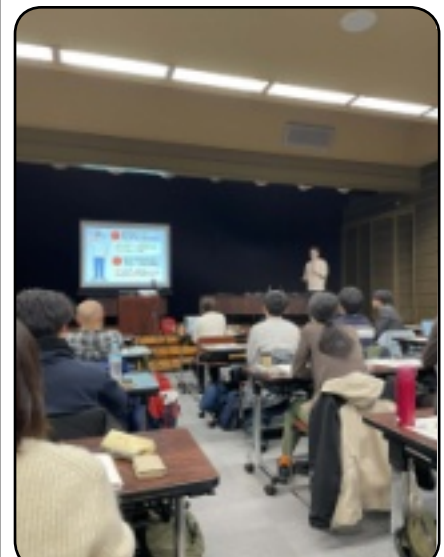
なつかし写真館

「3地区交流会」

平成22年(2010年)7月15日



中越大震災を期に真人、東山、岩沢の復興支援員が配置された地区で始まった中山間地区の交流会である。会場は真人北部若栃集落の「おっこの木」震災当時の写真も展示された。「岩山BarBar,s」のお母さん方が写っている。



編集後記

表面の記事にありましたが、先日新潟県庁で行われた「地域おこし協力隊シンポジウム」に参加してきました。6人のパネラーが登壇し行われた公開討論では様々な立場から意見交換がなされました。私が特に印象に残った言葉は、ある大学の教授から「人口減少や少子高齢化を地域の人たちは自分たちのやり方が間違っていた

と思っる人が多い、が、そうではない、代がそのように変わってきいてるから仕方ないのだ。地域は何も悪くない」という発言で、ほとんど便利になり車社会になれば、職場は街場となり、郊外店が乱立し、若い世代は便利な場所へ出ていくのは仕方ないのかもしれない。大切なのは地域に残った人が、いかにこれからも安心して元気に住み続けることができる地域にしたいのか考える事だと思います。……(I)

